

第2日目 午後の部

視察施設 社会福祉法人東明園 東明老人福祉センター
日 時 6月10日 14:00～17:00
所在地 ソウル特別市冠岳区1洞 647-10

<施設概要>

社会福祉法人東明園は、1950年に保育施設の東明学園を設立。その後、2002年に、東明老人福祉センターをユニットケア型の老人ホームとして開設された。今回の研修では、この老人福祉センターを視察した。事業内容は、老人療養、老人療養共同生活家庭で、日本の特別養護老人ホームに相当する。施設は、表通りから一步中に入った、一戸建てを中心とした住宅街の中にある。施設規模は、入所定員、老人専門療養が90名、老人療養共同生活家庭が9名。職員は58名で、うち8名は社会服務要員（兵役の代替服務、期間は2年）。施設運営においては、2003年の全国老人専門療養施設評価で最優秀施設選定を、2010年には老人長期療養保険施設評価ではA等級を受けるなど、韓国において非常に質の高い施設である。また、金施設長自身が、韓国の老人福祉施設連盟で介護保険対策委員長やソウル市老人福祉施設協会会長を歴任するなど、韓国におけるリーダー的施設と言える。日本との関係も深く、老人福祉センター開設にあたり、兵庫県尼崎市の園田苑で3ヵ月の宿泊研修をされている。また、聖隷クリストファー大学と実習機関交流提携をされており、日本からの実習生の受入もしている。さらに、日本社会事業大学の社会福祉研究大会で事例発表を行うなど、日本の施設や大学との関係は大きい。



介護面では、K-UCC個別ケアサービスを実践しており、個別ケアに力が注がれていることが伺える。K-UCCとは、K：KOMIチャートシステム、U：ユニットケア、C：個別ケア、C：ケアマネジメントの頭文字を集めたものである。KOMIチャートシステムとは、ナイチンゲール看護思想を基盤とした実践理論であるKOMI理論を、ケア現場で実践するための記録様式として、2004年に開発されたものという話であった。また、ONE-STOP医療サービスとして、専門診療や看護及び投薬、保険医療教育、物理治療

を行い入所者の健康管理を行っている。リハビリサービスとしては、音楽療法、美術療法、園芸療法、個別リハビリを行っている。

今後の課題を明確にされており、利用者からは、介護認定期間の短縮、利用者の拡大。事業所としては、在宅サービスの多様化、質の向上、地域と行政との連携。保険給付からみると、施設サービスの不足、従業者の確保と定着への支援、財源の確保をあげられていた。特に、人材確保については、文化を理解できない外国人の採用は考えず、人材は同民族で育成するものと言うことを強調されていた。